



佐藤 蒔 (さとう ふき)

愛知県生まれ。建築設計事務所勤務を経て、第一子の出産を機にフリーランスに。育児をしながら作っていたおもちゃが反響を呼び、デザイナーやイラストレーターとしての活動のかたわら造型作家として、現在は雑誌や新聞、WEBなどで作品を発表している。二児の母。著書に「親子で笑顔になれる“魔法の手作りおもちゃ”レシピ」(宝島社)がある。

<http://note.com/fukisato>

クスッと
おろえる
おもちゃが
いっぱい!



ISBN978-4-03-524210-9
C8072 ¥1800E
定価[本体価格1800円+税]
備成社



ふきさんの
アイデアおもちゃ
大百科

ひらめいた! 遊びのレシピ

佐藤 蒔

備成社

ひらめいた! 遊びのレシピ

ふきさんの アイデア おもちゃ 大百科

佐藤 蒔
FUKI SATO

備成社



材料と道具

身近にあるもので気軽に手作りを楽しもう！

ペットボトル



炭酸用のものはデコボコがなくツルツとしてるので、シールを貼ったりペンで絵をかいたりしやすい。66ページの「おふるコースター」には、いちばん大きい900mlがおすすめ。外国の飲料やお土産ものにはかわった形のものがあります。おもちゃとしての役割を終えたら、シールなどはがしてリサイクルへ。

マグネット



マグネットシートは、色つきのものや片面に粘着剤がついているもの、ホワイトボードのように使えるものなど、いろいろな種類があってとても便利。最近100円ショップでも買えるネオジム磁石は小さいのにとっても磁力が強く、本格的な工作にむいていますが、飲みこんでしまうと大変危険なので、小さいお子様がいるご家庭では使わないほうがいいでしょう。

紙コップ



さまざまなサイズがありますが、よく使われるのは7オンス(約205ml)。8オンス(約240~250ml)はコーヒー店のショートサイズに多いもの。10ページの「キョロキョロかおコップ」では、7オンスと8オンスの2種類のサイズを使っています。

手貼り用ラミネート



100円ショップやホームセンターなどで購入できる、紙や写真を保護するシート。いろいろな場面でちょっと使えて重宝します。ラミネーターという機械もありますが、手貼り用でじゅうぶん。18ページの「さかなマグネット」では、クリアファイルで紙を保護するさらに簡単な方法もかきましたので、ご参考に。

ストロー



最近プラスチックのストローを廃止し、紙ストローを使う企業がふえてきました。100円ショップなどにも紙のかわいいストローがいろいろあります。強度の面ではプラスチックのほうが使いやすいので、飲みものを買ったときなどに洗って保管しておいてください。工作では、太めのタビオカストローも重宝します。

色えんぴつとクレヨン



わが家でよく使うのは、油性の色えんぴつ。水にぬれたり手でこすったりしても、あまりにじみません。クレヨンは風合いがとってもいいのだけど、まわりのものをすぐに汚してしまうので、かわりにダーマトグラフという商品も多用しています。キットパスはおふるの壁や窓ガラスにかいて消せる、楽しいクレヨン。

テープ



手軽に工作をするならセロハンテープ、しっかりと接着したい場所にはガムテープや透明OPPテープがおすすめ。55ページの「おふるシール」にも透明OPPテープが使えます。

接着剤



私は両面テープをよく使いますが、両面テープがうまく貼れないときは木工用ボンドがいいことがあります。いろいろある接着剤の使いわけのコツは、素材にあったものを選ぶこと(製品にかいてあります)。使い方のコツは、裏側の使い方説明(両面にうすく塗って貼りあわせ数秒おさえる、などをきちんと守ることです。

デコレーションについて



両面テープは手で切れるものとハサミで切るものがあるので、手で切れるものを選んで。種類豊富なマスキングテープは、飾りつけるときに便利。ホームセンターには、ピンクや水色のかわいい布ガムテープやビニールテープがあります。

かざりつけには、ビニールテープをよく使います。もようにするときは3色程度のビニールテープをハサミで適当に切って、ランダムに貼りつければ雰囲気よくできあがります。顔を貼るときは、むずかしく考えずに「まる・さんかく・しかく」のくみあわせで。マスキングテープ素材の丸シールを使うこともあります。変化をつけたい場合はメガネなどを追加したり、絵本やキャラクターの顔の特徴を部分的にマネしてみたりすると、ぜんぜんちがう顔になりますよ。時間や余裕がないときは、手軽に油性ペンで絵をかいただけでもじゅうぶん。



キョロキョロ かおコップ

コップをまわすと
かお
顔がかわるよ!

3つ重ねた紙コップの内側だけをまわすと、目玉がキョロキョロ動きます。表情がどんどんかわって、おもしろい!

フードコートの待ち時間に作ったおもちゃです。内側の紙コップをまわしてずらすだけの単純なしかけ。子どもが自分で作るのが断然楽しく、工作のワークショップで定番のおもちゃになりました。紙コップに穴をあけるところだけ大人がやってあげてくださいね。サイズちがいのコップを使うと、クルクルとまわりやすくなりますが、なければ同じサイズでもOKです。

用意するもの

- 紙コップ (3個で1セット)
- カッター
- ビニールテープ (飾り用)
- ペン



大サイズは8オンス (250ml)
小サイズは7オンス (205ml)
※4ページ参照

飲みものを入れるコップ (大サイズ)

目玉をかくコップ (小サイズ)

鼻や口をかくコップ (大サイズ)

1.

外側の紙コップに、カッターなどで目玉の穴を2つあける (内側に1ついない紙コップを重ねるとやりやすい)。ビニールテープで作った鼻や口を貼る (かいてもOK)。

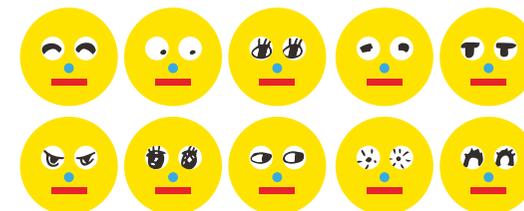
2.

コップを重ね、目の穴の中にペンで目玉をかく。両目をかいたら、片方の目をずらして、次の目玉をかく。

3.

これをくりかえし、いろんな表情の目をかいたら、できあがり!

さかさにすると、
オバケにもなるよ!



いろんな表情って、どんなのがあるかな?

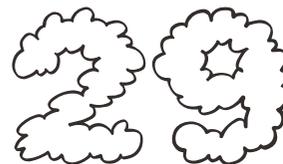
PART 3

そと あそ 外で遊ぶ



幼かった長男と散歩しているとき、大人である自分の興味関心と子どもの視線に近づいていることを感じました。スーパーの前でできた小さな木枯らしや、一部だけ不自然に動く木の枝(なにが生きものがいるかも?)、金網の影がちょうど地面のもようとなるところ、まるい木もれ日がぴったり子どもの手のひらにおさまった瞬間。私はもともと、そういうなにげないものをおもしろがるタイプではありますが、「あれもこれも、子どもが見たらきっと喜ぶぞ!」という気持ちがふくらんで、観察眼が研ぎすまされていた気がします。長男が小学生になって、そういう世界から少しづつ離れはじめると、徐々に私のそのスイッチもオフになっていき、「ああ、あれは期間限定の、尊い時間だったんだな」と、しみじみ実感したものです。

幸運なことに、7年の時間をあけて次男が生まれ、またそのキラキラした時期がやってきます。今度は長男もいっしょに楽しんでくれるといいな。



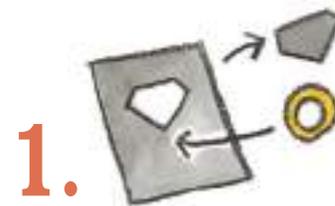
ジュエリーミラー

うつすもので色がかわる!

鏡と黒い画用紙で作ります。晴れた空をうつすと水色の宝石に、夕やけ空をうつすと真っ赤なルビーみたいになって、かっこいいよ!

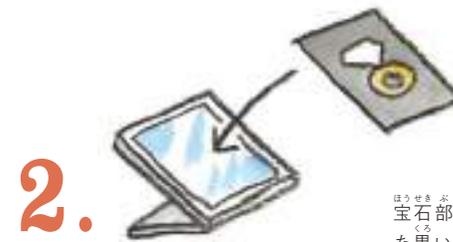
用意するもの

- 手鏡
- 黒の画用紙
- 金色の厚紙か折り紙
- 両面テープ・マスキングテープ
- カッター



1.

鏡の大きさにカットした黒い画用紙に宝石の形をかき、カッターで切りぬく。金色の紙で宝石のリング部分を作り、宝石の下に両面テープで接着する。

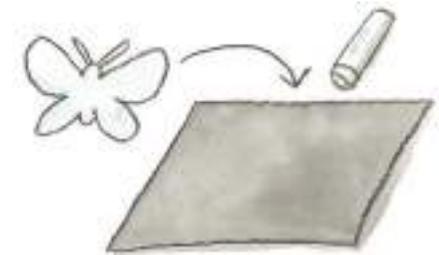
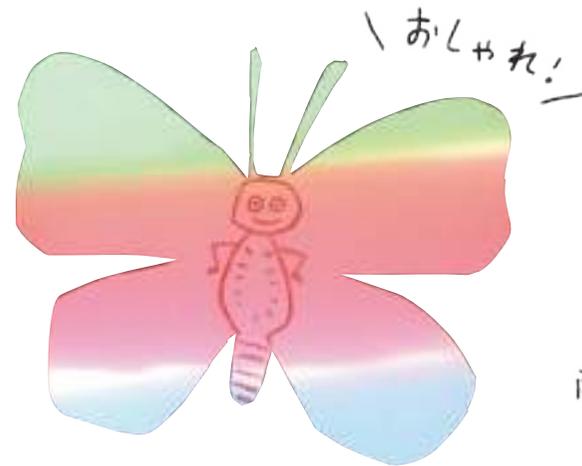
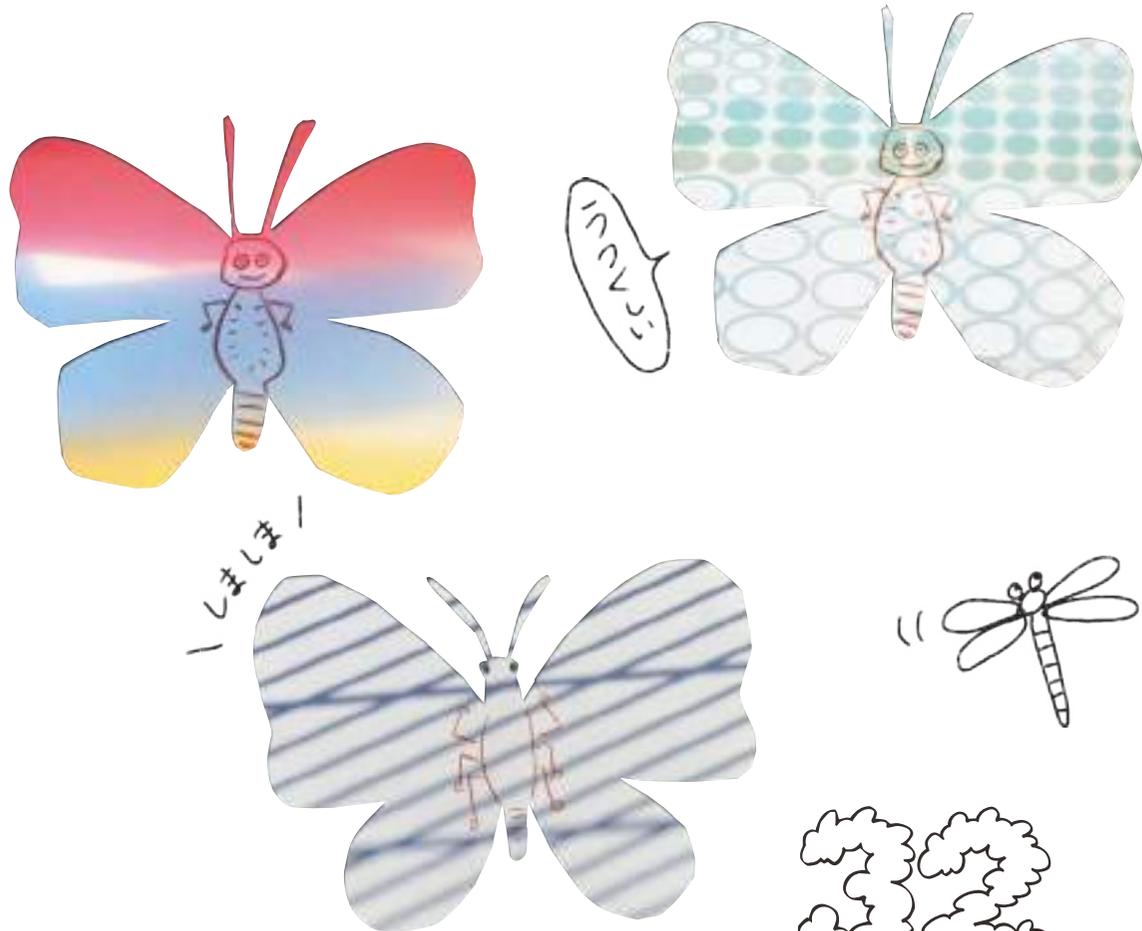


2.

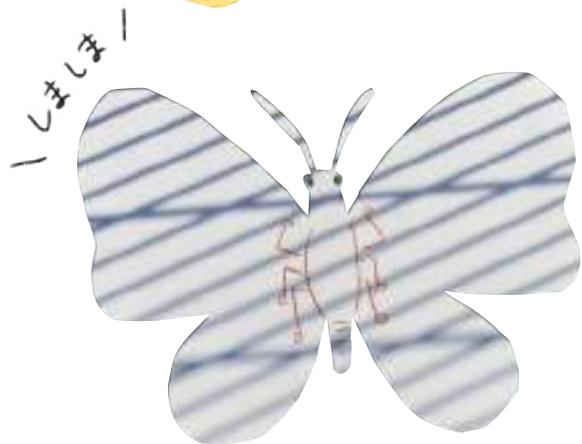
1の画用紙を鏡に両面テープで貼りつける。

宝石部分に、細く切った黒いマスキングテープをこんなふうにはると、より宝石らしくなる。

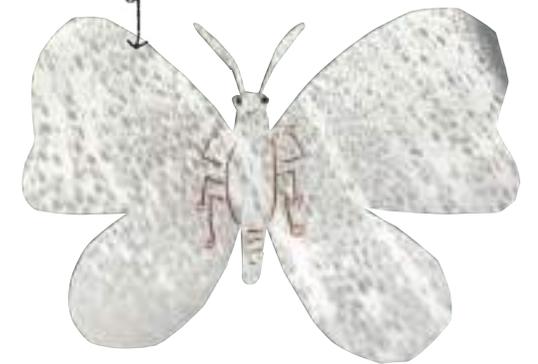




白い画用紙を切ってチョウチョを作り、黒い画用紙の上に貼る。光や影のまようをさがして歩く。



雨の日のマド



白いチョウチョにきれいな影や光をあてて、きせかえのように遊びます。もようになりそうな光や影をさがしながら歩くと、ふだん見逃していたおもしろいものが見つかるかも！

黒い画用紙は光や色を吸収するので、白い羽の部分が強調されて、きれいなチョウになります。光と影のまようを意識しながら歩くと、木もれ日の形がまるいことや、公園の遊具の影がきれいなことなど、いつもの道にも新しい発見がありますよ。

セロハン紙やシールの台紙をかざしてもきれい！



きせかえ チョウチョ

身近にあふれる
光と影を楽しむ

用意するもの

- 画用紙 (黒と白)
- ハサミ
- のり

